

第6回 昭島市男女共同参画推進委員会

議 事 要 旨

〔日 時〕 令和5年10月6日（金）18：30～20：10

〔場 所〕 アキシマエンス校舎棟 男女共同参画センター

〔出席者〕

- 1 委員：柴田邦臣委員長、掛川亜季副委員長、松川靖弘委員、若林とき子委員、小林美和委員、長谷部高史委員、牧野愛子委員
欠席委員：向井翔兵委員

2 事務局

滝瀬子ども家庭部長、曾根女性活躍支援担当課長、渡邊男女共同参画センター担当係長

3 傍聴者 1名

〔配布資料〕

- 1 昭島市男女共同参画プラン年次評価報告書【令和4年度 進捗状況】（案）
- 2 年次評価報告書修正案 一覧

〔議事要旨〕

- 1 開会
資料の確認

2 議題

- (1) 男女共同参画プラン令和4年度進捗状況調査結果について

◇男女共同参画プラン年次評価報告書案、1ページ「はじめに」では男女共同参画プランの経緯や推進委員会の目的、評価の方法について、また昨年度、男女共同参画都市宣言 20周年を迎えたので、そのことについて記載した。2ページからの表は施策ごとの評価について委員のご意見からピックアップして記載した。5ページ各目標における総体的な評価について、目標ごとに評価できる部分及び課題や今後期待する部分について委員のご意見を記載した。課題については、審議いただいた中で特にご意見をいただいた部分等について取り上げた。報告書の修正案については、寄せられたご意見の一覧をお配りした。9ページ以降については、漢字で「様」と記載した部分をひらがなで「よう」と書き直す部分や「～し、～」の形でいくつも文章をつなげる箇所があり、その修正についてご指摘があったため、ご指摘箇所以外も再確認し、修正する。Ⅲ-7は「子どもを守り、諫める大人への」との記載を「子どもを守り、対話する大人」ではいかがかと提案があった。本日の審議をお願いしたい。【事務局】

☆改めて皆様からたくさんのご提案をいただき、お礼を申し上げる。まず年次評価報告書修正案に関し、ぜひご自身の修正意見の確認も含めてご意見をいただきたい。【柴田委員長】

◆7ページの「パパ活と称して」というくだりは、頻繁に呼称が変わってくるものと思う。少し前であれば「JKビジネス」と言っていたが、現在も「パパ活」だけではないので、1年後に読んだ際に、「パパ活」というものが廃れている可能性もあるのではないかと気になった。【牧野委員】

☆私もこの部分は迷っているところであった、他の委員からもご意見をいただきたい。【柴田委員長】

☆多分、深刻化ということに関して、その深刻さの具体的な程度や、深刻化とまで言えるかどうかというこ

とを含めて、程度の問題という形でコメントをいただいたところと考える。具体的に書くということはわかりやすく良いと思うが、ただ、「パパ活」と呼称した場合「ママ活」というのもあり得る可能性がある。呼称について色々な可能性があるため、あまり具体例をここで上げてしまうことに関しては少し考えてもいいのではないかと。【柴田委員長】

◆問題は複雑になっていることがあり、昔であれば、ある程度何かを通さないと援助交際しづらかったかもしれないが、現在では個人でつながることが簡単にできるため、本当に無数の事例がある。また、男から女、女から男、男から男と様々で、「パパ活」で限定されてしまうのはいかがか。ほかにも学校会等と言って、小学生を抱っこして写真を撮ったら1,000円と言うものもあるらしく、そういうものも問題だと思う。パパ活以上に危険な世界があるので、そのように案件が見えづらく複雑化し、多様化している部分を書いた方が良く思う。【牧野委員】

☆問題の重さに関して記載する必要があると思うが、深刻さは誰にどう深刻なのかわかりづらい部分がある。牧野委員のご意見をいただき、「重大化かつ複雑化する若年層の性被害」という形で、質的ないし量的な広がりや両方入るのではないかと。あまり具体的な話を入れると時事的なものになる可能性があるため、どんどんひどく、しかも陰湿、隠ぺいされる形になっているので、そのニュアンスを生かした表現ができるのではないかと、一案出ささせていただく。【柴田委員長】

★修正案の「パパ活等と称して行われる」というのは、「深刻化する」を何かに置き換えたいと考え、このように提案した。他の適切な表現があれば、具体例を書く必要はないと考える。ただ、委員長からの「重大化かつ複雑化する若年層の性被害」という部分は、複雑化はしていると感じるが、重大化しているという評価をしていいのかということはある。以前から重大は重大であった。けれども見えていなかったということではないか。そういう意味では先ほど牧野委員からの「多様化する」という形の表現の方が意味、実態にあっていると思う。【掛川副委員長】

◆牧野委員が意図する部分は、「多様化」と「見えにくくなる」という部分ではないか。私がPTAの役員等を引き受けていた時も「わからない、見えない」という部分がかかなり問題になった。多様化もそうだが、多様化はどのくらい多様化しているかわからず、重大化はどのくらい重大化しているか見えてこないところ、おそらくこの若年層の性被害というところで、かなり大きな部分を占めるとなると、多様化という言葉で全てカバーできるのか疑問である。その部分をカバーできる言葉は「潜在化」などであるか。【長谷部委員】

◆程度の違いはあっても、昔から被害はあったと思うが、現在は本当に多様化し、個別の案件が見えないところで起きていると思うことが多い。ただそれを日本語にするのが難しいので、まとめて「多様化」と表すのが適切なのか。【牧野委員】

☆私も原案や対案を今確認しているが「多様化」という言葉に若干、二の足を踏んでいる理由は、この報告書で「多様性」が多く出てくる。しかもポジティブな意味で出てきているので、ここでそれを使うというのは、果たしてどれほどこの問題を表わしているのかということになるのか微妙で、できれば違うワーディングで牧野委員の思うところを表せないかと思う。私はかなり重大化、深刻化しているのではないかと考えている部分があり、定量的に検査されるわけではないが、類例としてのいくつかの研究もあると思う。今すぐエビデンス（根拠、証拠）は出せないが、相当問題として大きくなっているということはある。ただ、それをこういう報告書で、エビデンス抜きで明記するか、ということに関し、検討する必要がある【柴田委員長】

☆例えば、「潜在化および複雑化」という表現はいかがか。掛川委員のニュアンスも反映されるか。【柴田委員長】

★潜在化していない部分があったりするので、なかなかうまく表現するのが難しい。しかし「および」ではないと思うので、「潜在化ないし、複雑化」で良いと思う。【掛川副委員長】

☆それでは「潜在化ないし、複雑化」とさせていただき、事務局で、他の表現等あれば提案いただき、持ち

回りで承認させていただく。【柴田委員長】

◆事務局に質問であるが「参加しやすい様（よう）」の「様」を「よう」とするとのことだが、私自身は修正案の「よう」が良いと思うが、ここは漢字の「様」を使う等市のルールがあるのか。【長谷部委員】

◇「よう」についてはないため、ひらがなで表記する。【事務局】

☆承知した。こちらの修正案に関し、原案の方に反映されたということを前提にし、また改めて原案の方に戻り、皆様からご意見をいただきたい。【柴田委員長】

☆今回の報告書は例年通りの作成になっている。巻頭言があった後で全体に関する概要についてまとめており、それが2、3ページである。その後総体的な評価が5ページ目からになる。このあたりがとてもよく読まれるところである。もちろん後述の私達がコメントさせていただいた、プラン全体の進捗状況報告書の方が本体ではある。再度そちらも確認いただき、最後の意見反映の確認をしたい。

さらに7ページの年次進捗状況を踏まえた課題の整理という部分がしっかり整理される形で、この見解が、次の任期の委員に引き継がれる。8ページ「結びに」も含め、皆様から再度のご確認をいただきたい。9ページ以降はこれまで時間をかけて検討した参画プランに関する状況報告書の原案になっている。こちらの方は委員からのご意見が、基本的には反映されていると考えているが、記載漏れの他、こういった趣旨ではなかったということもあるかと思うので、改めて気になる部分についてご意見をいただきたい。【柴田委員長】

◆全体的には特に問題ないと思うが、英数字が場所によって半角と全角がまちまちである。

SDGs、NPO等は全角で統一した方が良い。また、私が発言した内容で、5ページ目の目標Ⅱに数値が出ており、私も調べた数値なので問題はないと思うが、東京都で1位、全国平均17%の箇所は事務局でも調べていただきたい。【長谷部委員】

◇確認しており、問題ない。【事務局】

☆英数字の表記と、数値についてご質問があったが、こちらについて事務局から意見をいただきたい。【柴田委員長】

◇全体的に確認をし、統一したいと思う。【事務局】

☆算用数字はある程度統一感があるかと思う。一桁で書いてある部分が全角で2桁以上は半角となっている。これはこの表し方で良いか。【柴田委員長】

◇それは市で書き表し方が決まっている部分である。【事務局】

☆基本的に市の報告書のルールがあると思うため、そちらに合わせもう一度事務局の方で確認願いたい。【柴田委員長】

★形式的なところで恐縮だが、4Pいじめの目標4の表下から四つ目の地域防災活動における男女共同参画の推進の下から2行目「30%という数字は。」となっている部分「、」が正しいか。【掛川副委員長】

◇確かに、間違いである。訂正する。【事務局】

★7ページの3課題の整理の、「最後に、令和3年度における主要施策」と書いてあるが、これは4年度か。【掛川副委員長】

◇4年度である。【事務局】

★7ページ年次進捗状況と課題の整理について、この委員会の審議状況を踏まえていろいろ整理していただいた。課題3若年層に向けた啓発の強化の箇所で、若年層に向け引き続き啓発の強化が必要であると議論していたところだが、一方で幅広い年齢層、男女問わずシニアの世代も啓発を強化していく必要があるという前提で議論していたと思うので、若年層だけで課題検討が必要というわけでもないと思っている。可能であれば若年層のみならず、やはりシニア層も含めて、啓発は必要であるということが入ると良いと思う。【掛川副委員長】

☆重要なお指摘をいただいた。若年層に向けた啓発の強化に関し、確かに若年層以外の層には啓発が満たされていると受け取られると大変困ることである。【柴田委員長】

◆学校はしっかり頑張っているのですが、若年層や、大きな組織に所属している方々は、このような情報はある程度行き届いており、むしろ私のような主婦や中、小規模の会社にこういうセミナーがないのではないかと。そして年配の方への啓発は全然届いていないような気がしている。性被害の対象になりやすいのが若年層なので、もちろん啓発はとても大事かと思う。ただ、男女共同参画という意味では、啓発はむしろ、学校に所属してる子供たちは先生方が頑張ってくれて、ポスターを作る、標語を作る等実施されていると思う。啓発は、他の層へ向けることが課題である。これだけいいものを作っても、結局届かなければ意味がない。【牧野委員】

☆そういう部分で訂正をどう反映させていくかと関連し、松川委員が専門なので一言いただきたい。【柴田委員長】

◆教員は子供に対して様々な制度や、男女平等ということ啓発はしている。子供との会話の中で家庭内のことで子供が悩んでいることが出てきたりするので、保護者の意識とのギャップを感じる。子供同士のトラブルの際、今日お子さんにこのようなことがありましたと伝えると、そのことを保護者に伝えた担任は、お父さんとお母さんの関係の中で、子育ては母親任せ、父親の言うことは絶対であるとか、そのようなことが見え隠れし、子供の発言からも出てきたりする。結局、学校として知識としては教えていくが、それが実際の家庭での様子とは違うということが子供の中にはあるので、そのギャップをどうしても埋められないというのが現実だと思う。【松川委員】

☆若年層を取り巻く家庭環境の代表的なご意見である。【柴田委員長】

◇今までの議論の中で、やはり若年層が被害に遭わないために、そこへの啓発は必要であろう、強化していくべきであろうという話であった。そこで課題として、若年層に向けた啓発の強化が上がったと我々は認識している。まずこの方向性を確認し、その上で、この書き込みの中で、若年層のみならず全世代に向けて啓発は必要、継続して実施する必要がある。ただ、やはり若年層への強化が必要である、という流れになるかと思う。最初の方針の部分と、それによってその次の書き込みの部分という形で分けて記載してはいかがか。

【事務局】

☆事務局から説明をいただいたが、委員の意見は、まさにその部分なのでぜひ取り入れていただきたい。私が個人的に危惧していることは、事務局の意見に近いところがあるが、若年層だけに絞り込んでしまうと、他の年代は達成されており状況が良いと誤解されてしまうとそれは違うので、それに関する言及はやはり必要で、全年代に対する啓発は推進していく必要があるだろうということが一つある。ところが、課題の整理の部分で、課題3を全年代に向けた啓発の強化と書いてしまうと、ほとんど何も言っていないことと同じになってしまうので、それでは課題と言えない。それは当たり前ということになるため、ある程度焦点を絞り込み、特に今後の昭島市を牽引していく若年層に対するアプローチは特に必要という姿勢を出すということはプラスになると思う。焦点化するというところで報告書の意義を上げると思う。どうバランスをとるかというところであるが、ぜひご意見いただきたい。修正のポイントとして、課題3若年層に向けた啓発の強化ということは、当委員会としても重要な課題と考えこの形で残す。一方で全年代に対しても必要な課題なので、本文の中で触れた方がいいのか、ないしは他のところで触れ、言及する方がいいか。例えば別の目標のどこかで、課題3で若年層を特に取り上げたけれども、全年代に対しての啓発活動にも力を入れていくべきであるという形で残すという案である。松川委員からの意見の中で若年層を取り巻く家庭やその地域の環境の意識の啓発が重要であり、掛川委員や皆様のように、ぜひ全年代に対する配慮という意味合いでの記載をするべきと、課題3について提案したい。【柴田委員長】

◆この課題3の中に記載するならば、若年層が心身ともに健全な発育を促されるよう彼らを取り巻く全体への啓発も併せて推進していく必要がある、という記載をお願いしたい。【松川委員】

☆松川委員のご意見をいただいたので、その形をお願いしたい。この部分もポイントがギュッと詰まって、良い文章になったと思う。【柴田委員長】

◆確認したい。課題2にはワーク・ライフ・バランスが出てくるが、最近使われていないのではないかと感じる。コロナ禍なのでそういう傾向なのか、それとも徐々にそれが違う用語に置き換わっている。もしくは、これ自体が時代を反映しなくなってきたのか、その辺の感覚がわからないがこれはプランで決まっていることなので、修正するわけではないが、若干、僕自身の肌感覚で、この言葉自体がもう既に聞かれなくなっている。それを今、今後の課題として実現に向けたさらなる取り組み強化と書いている。ここまではいいが、その後のプランで継続して使っていくのであれば気になる。個人的な感覚である。【長谷部委員】

☆皆様も知っている限りご意見をいただきたい。この用語は実は微妙に古さがある気がする。色々な意見があると思う。私が知る限りで、しかもエビデンスが出せないが、ワーク・ライフ・バランスというもののある種の困難さのようなものがあり、バランスをどう取るのか、バランスというとイーブンイーブン（五分五分）でとらなくてはいけないのか、逆に、例えばパートナーとの働き方で、妻の方が仕事80%、家事20%であってもいいのである。イーブンイーブンの責任、義務のようなものを持ったりするのではないかという議論を聞いたことがある。一方で無理にバランスを取らなくてはならないのかということもあり、若者受けしすぎということもあったりするが、だからといって逆に働けという話にも繋がる気がするのであまり良くないと思うが、最近はその意味で使いにくくなっている部分が若干ある。例えば、言い換えとして、ワーク・ライフ・マネジメントというのを聞いたことがある。私はライフ・ワーク・バランスだと思っている。ワーク・ライフ・マネジメントと言ってしまうと、うまくマネジメントして働きなさいという感じになる可能性もあるため、安易に言い換えるのが難しい部分が若干ある。もう一つは、もう使わなくなったかということではなく、内閣府は多用していると思う。行政用語という意味合いでは、バランスが取れていないことはやはり事実であるため、そのようなバランスをとり、色々な議論の中で使用するということがあり、公的な報告書の中で使うということに関してとても古くなった感じのことはまだない。【柴田委員長】

★用語についてはあまり詳しいわけではないが、確かに長谷部委員がおっしゃる通り、これは少し古いというイメージがついている気がする。その一方で、用語を今置き換えるとなったときに、委員長がおっしゃられた通り、まだ他の用語としてこれがぴったりあてはまるというものは出ていないような気がしている。そのような中でもやはりワーク・ライフ・マネジメントとかワーク・ライフ・インテグレーションなども、それもすごく働くということがメインとしてあるような印象を与え、前回会議で議論したが、ワーク・ライフ・バランスというよりは、個々の人生がどのように充実するか、それぞれが尊厳を持って生活できるかというところなので、性に関わらず、そこをうまく表現する言葉が今まだ出現していないので今の段階ではなかなか難しいと思う。【掛川副委員長】

☆実際にやはり仕事と生活というものが問題化されるということは、とりあえず今期につきましては重要なことだと思う。とりあえず現状のまま使用させていただき、次回の委員会に対してこの部分をちょっと検討いただくという形で考えていくのか、これを昭島として考えていき、この用語に捉われず、何か新しい表現として議論していく可能性もあるかと考える。【柴田委員長】

◇課題2について資料を調べ、表題としては、この計画に載っている言葉なので使うが、冒頭の書き出しを「男女がともにライフイベントとキャリア形成を両立することは、」と記載したが、「イベントとキャリア形成」と、限定してしまったと思ったがそこはいかがか。【事務局】

◇補足すると、先ほど委員長からもお話があったが、ワーク・ライフ・バランスの行政用語というようところで、市役所では、まだまだ普通に使われている、確かにワーク・ライフ・バランスであえて指定して会話の中に入れるというのは減ってきているような印象は同じく受ける。ただ、目標としてはこれを達成しようとしている。行政職も残業が多い等言われているところがあり、なかなか達成が難しい。また、一つの流れとして、我々職員に向けた研修でも、キャリアマネジメントというキャリア形成の研修がされている。それはただ単に自分がどういう仕事をするかということではなく、生活、あるいは自分の人生、家族、地域での生活も含めて、その上で仕事があるという、キャリアマネジメントという研修が庁内でも増えてきている。

そういう機会があり、流れがある。【事務局】

☆ワーク・ライフ・バランスという用語に関する意見から生まれた議論だが、重要な論点がいくつも出ている。事務局からも意見があったが、この部分でライフイベントとキャリア形成やマネジメント理論はやはり絞って議論することは重要で、これが達成できるかという達成できておらず、重要な論点だと思う。

それは庁内だけではなく、地域全体、昭島全体におそらく求められており、今期はこういった観点が重要であると思うので、行政用語として、ワーク・ライフ・バランスの部分はそのままにし、かつ1行目は良い表現かと思うが、男女ともにライフイベントとキャリア形成を両立していくということに関し、まず、意識付けをし、これは今後多様なものが現れてくると思うので、それは次期委員会でご議論いただき、論点として引き継がれるかと思う。【柴田委員長】

☆では、今期の感想ご意見を各委員からお願いしたい。【柴田委員長】

◆報告書について事務局の皆さん、作成ありがとうございました。今期の2年間を振り返り、コロナ禍の中で、やや停滞した部分というのは少なからずあったと思うが、その中でも事務局の方々中心に、男女共同参画プランを進めていただいた部分も垣間見えていた。何もなかった2年間ではなく、逆にこの状況でも工夫をし、進めていこうという前向きな報告書、プランになったのではないかという印象を受けている。皆様からの意見は今までと異なる状況の中でのご意見であったので、非常に、興味深かった。参考になるご意見はぜひ今後のプラン等にも生かしていただければと考える。【長谷部委員】

☆ぜひ意見を生かしていく形でお願いしたい。【柴田委員長】

◆市でこのような活動をしていることを知らなかった。一つ一つの事業が難しく、簡単に進むことではないので、本当に難しいといつも思っていた。意見もたくさんあるが、それを言ったからと言って、どうなるのかとか、現実の部分もわかっており、なかなか簡単に意見できなかつたが、活動一つ一つが、昭島市の未来を作っていくとすごく感じた。20数年前に昭島に来て、その時は昭島市に児童館がなかった。羽村や福生はすごく充実しており、わざわざ、そちらに遊びに行っていた。でも数年後、私の子供が幼稚園に入る頃は児童館ができ、そうやって少しずつ変わっていく。そのための会議なのだと学ばせていただいた。【小林委員】

☆良いお話をどうもありがとうございます。事業は進んでいっていると感じる。【柴田委員長】

◆このような委員は初めてなので、もう少し良い意見を言えたら良かったと思うが、昭島市はそこまで大きな市ではないので、逆にそれがメリットで、内容も充実し、もちろんまだまだの部分というのもあるが、規模が大きすぎないので、これからもどんどん充実させていけたら良い。男女共同参画は概念的なものというか、幅が広い。息子は男子校に通っており、公民の授業で、住んでいる市の施策を発表しなさいという課題があった。私の家に男女共同参画の資料が沢山あるのでそれを発表した。男女共同参画について発表したのは息子だけで、男子校で、そもそも女子がいないので、男女共同参画について発表したら意外と反応が良く、子供は素直なので、今男子校にはいるが、これから生きていくのに関係があること、ワーク・ライフ・バランスや女性が妊娠出産すること、デートDV等を紹介し、昭島市はこういうプランで実施している、と紹介したところ、うちの市ではやっているのかという議論になった。そういう意味で言うと草の根活動というか、本当に1人1人知っていき、広がって結果がついてくる。チラシを配りました、では何世帯に配ったので良いですね、その世帯数でどう広がったとは見えにくく難しいこととは思いますが、絶対意味があるので、私自身も微力ながらこれからは草の根活動をしようと思っている。【牧野委員】

☆このプランや活動が、一つの助けになればと考える。たくさんのご意見をいただきありがとうございます。

【柴田委員長】

◆私も初めての委員で、会議に参加させていただいて市が色々な活動をしていることがわかり、今まで本を読むことがあまりなく、字が細かくて読むのも重く感じ、意見をどう言ったらいいのかと迷った。色々な活動を実施してくださっていることに対し、私達が何か言えるのかと感じ、ここはこうした方がいいのではな

いかというのを自分なりに思っても、申し訳ない気がして、本当にそういう部分が難しくて意見というのがなかなかできず申し訳なく思っているが、色々なことを覚えさせていただいた。ありがとうございます。【若林委員】

☆実はプランもいろいろ試行錯誤があり、読みやすくなっている。それまで大変だと思うが、そのような将来的な検討をまたしていただければ良い。多様な視点で、ご意見いただけたことが何よりも、プランのためになっていると思うので本当にどうもありがとうございます。【柴田委員長】

◆教師を30年近くしているが、例えば算数など教えるならば、私が小さいときから教える立場になるまで、三角形の面積の求め方は底辺×高さ÷2で変わらないことで、変わらないものがある中で、先生たちというのは、新しい知識をどんどん外から吸収して、子供たちに教えるのだとここに参加して改めて感じた。教科書には載っていない、概念とか前提は、そういう底辺×高さ÷2だけで終わるような形で男女平等を書いているわけではなく、概念として、子供たちに伝えていかなければいけないもので、子供たちが感じ取って実践できるようにしなければいけないものだから、先生方が勉強していく必要性を改めて感じた。戦争をなくしましょう、平等にしましょうとか、実際世の中で何が行われているということを伝え、学校の限られた社会の中で、仲良くしましょうと言っても、ニュースで、虐待があったり、戦争がおきたりしているわけだから、自分たちの限られた校舎の中での生活の中に、理想的なものを疑似体験するような社会と現実のギャップみたいなものを薄々感じている。しかし子供たちはきちんと使い分けてたくましく生きていると思う。だからこそ、行政の方々が、いろんなセクションで男女平等というテーマに従い、確かに評価は厳しいかもしれないが、試行錯誤しながら真剣に向き合い、取り組む姿を感じることができ、とても良かった。世の中のことにに関して、暗いニュースがあったり悲観したりするようなことがあるが、校長先生はこのように、市役所の人たちと一緒に勉強し、昭島市の人たちが一生懸命、みんなが仲良く、世の中で生活できるまちを作ろうとして頑張っているよということ、見たり聞いたりしてきたということをお伝えしようと思う。【松川委員】

☆行政が、本気になって男女共同参画を少しでも改善したいと思っていて、一部ちょっと大丈夫かなと思う部分もあるかもしれないが、昔と比べるとやはり改善されており、このプランを続けるということに意味がある。その本気さが子供たちに伝わっていくということがとても重要で、それがプランの存在意義になっており、今後も男女共同参画の概念が広がっていけばと思う。【柴田委員長】

★1年間ありがとうございました。本当に今皆様がおっしゃられた通り、この評価をずっと各年度でやっていくということそのものが、プランを推進する力になっていると思った。厳しめの意見も申し上げたが、市も頑張っているという委員からのご意見もとてもやはり大事で、理想論だけではなく現実も踏まえた上で、今としてはこういう部分まではしっかりと行政にやってほしいという要望とのブレンドがものすごく大事だと思うところである。意見は、ぜひ飲み込んでしまわず、その逡巡の部分も含めて、教えていただける方が、委員長も進行しやすいのではないかと思います。本当にここでもいろいろな視点からのご意見が出て、私もとても勉強になった。自分はDVやストーカーなど事件の関係で男女共同参画のことを考える機会が多いが、それ以外の普段の日常生活の中で、あるいは市の行政業務の中で、どのような活動や配慮がされているか知ることができ大変勉強になった。私も勉強していきたいと思う。【掛川副委員長】

☆当委員会には以前東京女子大学の金野美奈子先生という男女共同参画専門家の先生が委員を務めており、今期はその先生が留学をされたため、私が留守居を預かる形になった。事務局の交代で色々あり、どうなることかという状態だったが、何とか無事に終わることができそうで、私も本当にほっとしている。私としては委員長として議事進行役に専念させていただいた。年ごとに精度も上がっていったという実感を自負しており、会議の進行そのものが推進されたということが一番思い出に残り成果として上げられることと思っている。これはご意見をたくさん活発にいただいた皆様のおかげと思っている。委員会がいくらもめても内容が良ければ良いということであるが、内容の方もとても精度が上がって良くなったのではないかと思います。報告書の精度も上がったと実感している。数字の落とし込みやポイントの書き方はこれまでの蓄積もあ

り、意見を言ってくださった皆様方の意見がそのまま頑張っ反映されようとしている。今回の委員会の一番良いところは皆様からいただいた具体的な意見を頑張っ事務局も、一生懸命落とし込んで、それをまた皆さんで反映しあっ、着実に進んでいるところがある。本気で男女共同参画に取り組もうという姿勢そのものが、このプランに表れているところが私は今回の委員会で、一番感銘しているところである。ですからプランそのものが真の男女共同参画の推進を検討しているけれども、このプランが出されることそのものが、その推進というのを強く後押しするアイディアに満ちているところがあると思う、それが今期はさらに頑張っているところがある。ある意味こういったことが良いカルチャー文化になってきており、これは昭島の男女共同参画の文化となっってきているのではないかと思う。この文化をぜひ新しい委員会でもリスペクトされるように、私からも審議チームメンバー、委員長へお願いする形で伝えていきたいと思っている。これから委員の皆さんのご協力があっ、それが昭島の男女共同参画の文化に広がっていくことを期待して、この報告書を市長および市民の方々に答申したいと思う。本当にどうもありがとうございました。【柴田委員長】

3 その他

◇本日のご意見をもとに事務局でまとめさせていただき、改めて委員の皆様へ送付をさせていただく。そちらの修正などは期日も指定させていただくので、お送りいただければと思う。最終的には11月10日に、柴田委員長から市長へ、委員会を代表して報告していただくことになる。【事務局】

◇本日は6回にわたる会議の最終日となり、皆様にはお忙しい中ご論議をいただき感謝申し上げる。色々な気付きや市の仕事に対し力付けていただくようなご意見もあり、引き続き昭島の男女共同参画を推進していきたいと思っている。来期の委員に関し、広報11月1日号に募集記事を掲載したいと思っている。ぜひ、第2期の委員にも申し込みいただければ事務局一同思っている、よろしくお願ひしたい。今後とも当市の男女共同参画施策の推進のためのご協力をよろしくお願ひしたい。ありがとうございました。【事務局：曾根女性活躍支援担当課長】

◇昨年、今年と2年に渡り本当にありがとうございました。委員の皆様から先ほど、厳しい意見を出しましたけど、というお話もいただいたが、それを受け止め乗り越えていくことにより、良いまちになっていくのだという思いで、日頃頑張っている。至らない点に関してはご意見をいただき、一つずつでも改善して前に進んでいきたい、良いまちにしていきたいという思いが職員一同にあるので、今後ともまた次期も、よろしくお願ひしたい。本当にありがとうございました。【事務局：滝瀬子ども家庭部長】

☆それでは、今期の委員会を終了させていただきたい。皆様本当にご協力ありがとうございました【柴田委員長】